

行雲流水

No.295 令和5年4月25日発行

「あいさつ」は、お互いの幸せを生み出す賢い知恵

校長 寒河江 正人

新学期の神町中学校。朝の校内に**元気な声**が響き渡る。

「おはようございまーすっ！！」「おはようございまーすっ！！」

本校の生徒諸君の「あいさつ」は、実に**みごとだ。すばらしい。りっぱだ。フラボー！**
こういう元気な「あいさつ」に触れると「**気持ちが爽やかだ**」「**うれしい**」「**感心する**」。

では、生徒諸君。そもそも「あいさつ」とは、何ぞや？ どうして大切なの？

「あいさつ」は、漢字で「挨拶」と書く。

「挨拶」は、「押す」という意味。「拶」は、「迫る」という意味を示す。

本来は、「禅宗において、門下の僧に「押し問答」をして、修行を積んだ悟りの浅い・深いを試すこと」を指す言葉とのこと。

転じて、現在は「相手に対して「尊敬や親愛の気持ち」を表す動作・言葉・文面」などのコミュニケーションの手段の一つ」を意味するようになった。

「おはようございます。」は、英語で「グッドモーニング」、フランス語で「ボンジュール」。
ドイツ語で「グーテンモルゲン」、イタリア語で「ボンジョール」。
韓国語で「アニョンハセヨ」、中国語で「ザオシャンハオ」。他の国では何というのかなあ。

一番大事なポイントは「年齢・性別・国籍などの別にかかわらず、お互いの尊敬や親愛の度合いが深いほど、信頼が生まれ、より良いコミュニケーションが生まれるということは万国共通のルールなのだ。」ということ、しっかり理解しているかということだ。

もう一つ大事なポイントは「あいさつ」から「3つの幸せが生まれる」ということだ。

その1 「自分と相手の間の「緊張をほぐす」ことができる。」（**お互いニッコリ**できる）

その2 「相手との「会話のきっかけ」になる。」（**話しかけやすくなる**）

その3 「相手に「良い印象」をもたれ、人間関係が良くなる。」（**いいなあ**と思える）

生徒諸君、これからの**未来を生き抜いてゆく君たち**には、しっかり**心**に刻んで欲しい。

私たち人間の「あいさつ」は、**お互いの尊敬や親愛・信頼・コミュニケーション**を深め、
「**3つの幸せ**」を生み出す「**賢く、尊い知恵**」なのだよ！ということ。